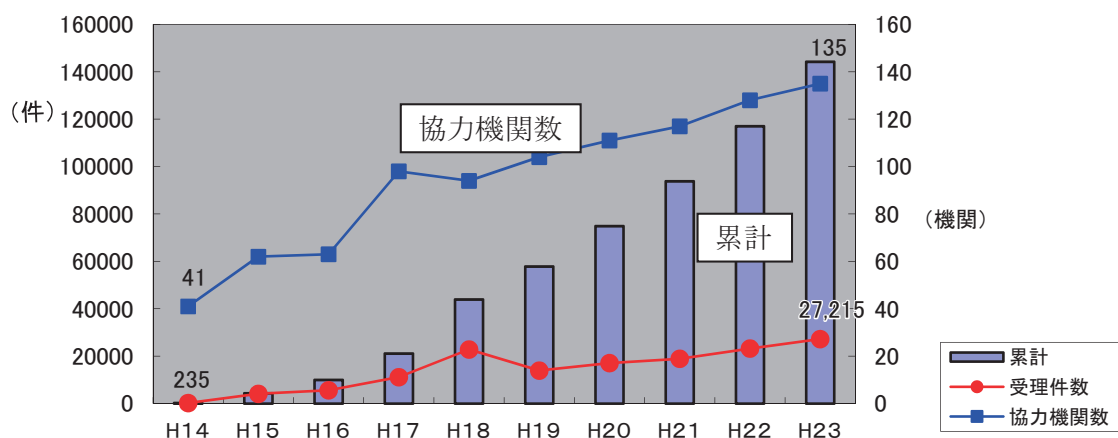


# I 精度の高い「広島県がん登録」体制ができあがりました

広島県は平成20年（2008）3月に「広島県がん対策推進計画」を策定するとともに、平成22年（2010）には「がん対策 日本一」を標榜し、がん死亡数減少に取り組んできました。「がん登録」事業は「がん予防」、「がん検診」、「がん医療」、「緩和ケア」、「情報提供・相談事業」など、がん対策事業全体の基本的・客観的資料を提供する事業でありますので、その精度はできるだけ高く、かつ、持続されているものでなければなりません。

がんの精度はがん診断情報の把握率ならびにがん診断の根拠となる病理組織学的診断比率をもって表現することができます。がん診断情報（がん登録）は下図に示されますように、協力医療機関数ならびに登録症例数、ともに年毎の増加という実績が残っております。このような状況下で、広島県のがん診断情報とがん病理組織学的診断比率は、全国がんモニタリング集計によれば、平成17年（2005）以降、常に全国集計平均値よりも、より精度の高いデータを示していることが証明されております。また、今回の平成20年（2008）集計においては、これら継続した資料より「罹患と死亡の年次推移（27頁）」という形で広島県のがん罹患・死亡の長期的動向（トレンド）を見ることができるようになりました。



2年前のこの報告において、「日本一から世界一」登録を目指してというタイトルでこの頁を書かせてもらいましたが、270万人規模でこれほど精度の高いがん登録事業が行われている都道府県はなく、まさしく、日本一精度の高い「広島県がん登録」体制ができたといえます。来年度からは各疾患別、2次医療圏別5年生存率もお示しできると思います。

広島県は平成25年（2013）度から平成29年（2017）度までの5年間の「広島県がん対策推進計画」を策定しはじめました。昭和32年（1957）より開始された「広島市医師会腫瘍統計事業」および昭和48年（1973）より開始された「広島県腫瘍登録事業」と一体となった「広島県地域がん登録事業」が前述のような高い精度の登録データをもとに、次期5年間の計画として・罹患動向からの将来予測で対策強化すべき疾患の選択・早期発見の現状把握・各疾患別進行度別5年生存

率・医療機関ごとのがん種別治療件数・拠点病院受療比率・県内2次医療圏をまたぐ受療動向分析・地域別／性別／年齢別などの詳細な分析情報の提供など、他のがん事業に有益な資料を提供できる解析を考えております。

がん登録運営部会は、引き続き県民ならびに関係医療機関に精度の高い解析結果を発信していく所存であります。皆様方の更なるご理解とご協力をお願いいたします。

平成24年3月

広島県がん対策推進協議会

がん登録推進部会長 鎌田 七男